

禍福はあざなえる縄のごとし

ネパールトレッキングを楽しんできた。初めてのネパールから数えて二十数回目となる今回は、ルクラからシャンボチェまでの、トレッキング。「岩崎元郎の地球を遠足」の第二回目、カシオプロトレック協賛のモニターツアーということで、アルパインツアーで企画実施された。参加者19名、カシオの技術スタッフ1名、ツアーリーダー1名、そしてぼくの総勢22名は、11月21日朝、成田空港に集合した。

チェックインも済まし、全員が再集合して出発前の挨拶をしているとき、「岩崎さん」と声がかかった。誰かと思ったら、「山野井です」にびっくり。さすが、顔面90針。童顔だった山野井君が、男っぽい顔になってそこにいた。妙子さんも一緒、オーストラリアに岩登りに行くんだとか。

ともあれ我々を乗せたタイ航空の飛行機は、ブンと飛んでバンコクに着陸、ホテルに案内されて寝て、翌22日朝、平穏なタイ空港に送られ、カトマンズに飛んだのであった。現地の旅行会社シーガルトラベルの社長ラム・ガルトゥーラさんに出迎えられ、ラディソンホテルに入る。明日から始まるトレッキングのためのガイダンスを済ませて寝る。乾期だというのに、一ヶ月程前天气が崩れて、ルクラ便のフライトキャンセルが続いたという話を聞いていたので、天気だけが心配だった。

23日、カトマンズは快晴。ホテルを6時半に出て、空港に向かう。必殺マネージャーのプラビンさんがチェックインを済ませ、搭乗券をもらってセキュリティーチェック、政権交替のためか以前に比してうるさくはなくなった。待合室に入ると、「ルクラ、ルクラ」と呼び出しがかかる。ベンチに座ることもなく、バスに乗り、イエティエアの飛行機に乗り、飛び上がったと思ったら、ルクラの飛行場に着陸した。

お茶した後、ゆっくり立ち上がって、パグディンに向かった。朝方は寒い位だったが、もう半袖で大丈夫。タダコシでランチタイム。見上げればクスムカングルがヒマラヤンブルーの空にくっきり聳えている。

満腹のお腹を抱えて午後の部に入る。我々は初日でお上りさんだが、下ってくる人も多い。「岩崎さん、どうも」、誰かと思ったら美ヶ原高原ホテルの現社長、高橋健氏であった。そうこうしているうちにパグディン着。数年前まではテントが主流だったのに、いまではロジ泊が常識みたいになっている。トイレがきれいなのがいい。

腕前ナンバーワンのコック、ダワ・チリンの作ってくれる夕食に大満足して寝る。

24日、朝起きたらドゥードコシの谷は雲に埋まって、灰色だった。朝食にはダシ巻きタマゴなんてのが、出るんですよ。これがすごく旨い。家の近所に「高勢」という寿司屋があって、ここの玉子焼が絶品なのだ。「巨人、大鵬、玉子焼」という囃子言葉が流行った時があったが、ぼくは玉子焼が好きだった。玉子焼には一家言持つ岩崎にして、一番は高勢、二番はダワ・チリンなのである。

美味しい朝食に気を良くして、ナムチェバザール目指して出発。ジョサレで昼食を済ますと、ドウドコシを渡り、ナムチェへの登りが始まる。歩幅を小さくゆっくり登ればどうってことない。夕暮れ前にはラクパ親子の実家、サクラゲストハウスに入る。

拙文のタイトルは「禍福はあざなえる縄のごとし」だが、成田での山野井君との出会いに始まって、福また福の連続である。それがきょう、山が見えない曇天下の一日だったのだ。きょうはいい、でも明日は晴れてくれないと絶対に困る、そう思って寝袋に入って目をつむった。

25日、目を覚ます。寝袋から抜け出す。窓を開け、おそろおそろ外を見ると、薄明の空にコンデリがくつきりとシルエットを描いていた。ヤッター、ラッキー、またまた福だ。朝食を済まし、まずは展望台に上がるべく、サクラを出る。一步足を前に出すたびに世界が広がる。ナムチェバザールの集落を前景にして、これがヒマラヤだといわんばかりに、コンデリが高く聳えている。頂稜は朝日を浴びて、神々しく輝いている。シャッターを押すのが忙しくて、なかなか前に進まない。「あそこまで行くとエベレストが見えますよ」とアナウンスしたら、歩みがスムーズになった。

ジャン！ エベレスト登場。手前にヌプツェ、右手にローツェ、ローツェ・シャルを待らし、雪煙をたなびかせて胸を張っているエベレスト8848m。こんな幸運があつていいものか、なにか手痛いシッペ返しがくるんじゃないか、という不安は胸に納めて、幅広く歩き易いエベレスト街頭をキャンジュマに向かう。尾根に隠れない限り、エベレストはいつでも正面に見えている。アマダブラムが格好いい。

左側の尾根の傾斜が緩くなって平となるとバツィーが出現する。最近ではバツィーと呼ばず、ロッジと呼ぶのが普通のようなので、ちょっと淋しい。古株になってしまったような気分だ。

このキャンジュマで昼食。ブレスレットやネックレスやお面や仏具やらの土産物が並び、テラスのテーブルは欧米人が囲んでランチタイム。バックにはアマダブラムが聳えていて、シャッターを押せばコンテストで入賞すること間違いなし。昼食後、街道を離れてクムジュンへの道に入る。村のはずれから左へ、エベレスト・ビューホテルへの道を登る。この辺りタムセルクが格好よく見える。カンテガ見えてきた。

エベレスト・ビューホテルに到着というところで、霧がわあっと湧いてきて、なんにも見えなくなった。ホテルのテラスでホットチョコレートを飲みながら、いましがたまでの、三日間のトレッキングを振り返る。明日はもうUターン、ルクラにくだらなくてはならないのだ。ホテルから霧の流れるシャンボチェの丘に出て、今宵の宿、パノラマホテルへとのんびり歩いて行った。

翌日ルクラに下り、その翌日スムーズにカトマンズに戻ることができたのだから、案の定禍は待っていた。バンコクの空港が閉鎖されて飛行機が飛ばない。これだけ運よくいい思いをしたんだから仕方ないな、二～三日の遅れを覚悟していたら、ツアーリーダーの尽力でデリー経由成田の便が確保された。なんたる幸運、禍は福に転じて予定通り30日の朝、成田空港に着陸したのであった。